

■ リサイクル問題

【問】ごみ焼却施設の老朽化が進んでいる。維持管理と更新の方針を伺う。

【答】安全性を確保して稼働しているが、更新を見据え検討を進めている。
広域連携も含め効率化と費用負担を考慮している。

■ ICT支援員

【問】学校タブレット整備は進んだが授業活用に差が。教員支援策を伺う。

【答】研修や支援員配置で教員のICT活用力を高めている。
授業改善と校務効率化のため環境整備を進めている。



くすめ視点は…

ごみ処理施設の老朽化や教育ICTの活用について議論し、市が現状維持と改善に取り組んでいることを確認しました。

基盤整備は市民生活に直結するため、安全性を確保しつつ計画的に更新を進める必要があります。

ICT教育では教員研修や支援体制を強化し、教育環境の充実を図る姿勢が示されました。

第507回定例会（令和7年3月）一問一答方式

■ 公共交通空白地帯

【問】公共交通の空白地域解消について進捗と今後の方針を伺う。

【答】12地域でデマンド交通を導入し人口の9割をカバーした。
今後はアプリやライドシェア導入を検討している。

■ 議会質問における進捗

【問】過去に「検討」「調査」と答弁された施策の進捗を市民にどう伝えるか。

【答】制度設計や財源に課題があり結論に至っていない。
原則は議会で説明し、パブリックコメントも活用している。



くすめ視点は…

公共交通の空白地域解消や施策検討の進捗について議論しました。
デマンド型交通導入は一定の成果を上げていますが、地域差に応じた柔軟な対応が今後も求められます。
また、市民への説明責任を果たし透明性を高める姿勢が重要であると確認しました。



今回の主な内容

- ✓ 事務事業見直し・使用料手数料改正
- ✓ 定例会一般質問報告
- ✓ 建設委員会視察

市民クラブの「楠目慎一郎」です。いつも温かい応援をありがとうございます。
今回は「事務事業の見直し・使用料手数料の改定」をはじめ、人口減少や公共交通、防災など暮らしに直結する課題を議会質問しましたのでご報告いたします。住み続けたい高知市を目指し、皆さんと一緒に“暮らしを守り未来をつくる改革”を進めていきます。

事務事業見直し・使用料手数料改定

第509回定例会では、市財政の健全化に向けて「事務事業の見直し」と「使用料・手数料の改定」が提案され議論を行いました。

事務事業見直し：全事業を整理し、将来世代へ財源を引き継ぐ取組。
使用料・手数料改定：受益者負担の適正化を図るもの、負担増による利用抑制の懸念も。

私は、市民サービスの低下や一律削減とならぬよう丁寧な説明を求め、特に子育て世帯・高齢者・地域団体への配慮が必要と訴えました。行財政改革は「暮らしを守り未来をつくる改革」であるべきと考えています。

第508回定例会（令和7年6月）総括方式

■ 進学・就職などライフステージにおける高知市の課題と対策

【問】進学による若者流出の現状認識と要因を伺う。

【答】進学者の約6割が県外進学している。

学部の有無や就職有利、都市志向が主因である。

【問】県外進学後も地元回帰につなげるための大学等との連携を伺う。

【答】高知大学や工科大と連携授業を行っている。

探究学習で地域愛着を育み地元回帰につなげている。

【問】若者の地元定着の現状と課題を伺う。

【答】高卒7割、大学卒3割が県内就職している。

賃金格差や職種偏在が課題であり対策を進めている。

【問】若者が働き続けるための「働きがい」支援を伺う。

【答】奨学金返還支援やインターン補助を行っている。

県制度と連携し柔軟な働き方を支援している。

【問】人口減少対策の庁内体制強化について伺う。

【答】政策企画部を新設し庁内統括を任せた。

KPI管理や有識者助言で重複防止を図っている。

【問】人口減少対策の基本方針と市長の姿勢を伺う。

【答】人口減少を最重要課題と認識している。

雇用創出や子育て支援を重視し全庁で着実に進めている。



くすめ視点は…

若者の進学や就職を契機とした人口流出に焦点を当て、教育や雇用など幅広く議論しました。

市は大学との連携や奨学金返還支援、インターンシップ促進などを通じて定着を図る姿勢を示しました。

人口減少対策を最重要課題と位置づけ、庁内横断体制を強化し持続可能なまちづくりを進める方針が示されました。



一問一答方式：質問と答弁を交互に行い、やり取りの中で掘り下げていく形式。

総括方式：質問をまとめて行い、その後にまとめて答弁を受ける形式。

個人的には一問一答方式が市民のみなさまに伝わりやすいと思い多く使用しています

建設常任委員会視察（令和6年10月）

視察日程令和6年11月12日(火)～13日(水)

視察先富山市・富山環境整備：プラスチック再商品化
町田市：バイオエネルギーセンター

富山市の取組概要：令和4年施行の「プラスチック資源循環促進法」を踏まえ、容器包装と製品を一括回収へ。

成果：プラスチックごみ増(1,212→1,316トン)、可燃ごみ減。焼却量抑制によりCO₂削減。分かりやすい分別でリサイクル率向上。課題：処理費増で市の負担が増加。

富山環境整備内容：産業・一般廃棄物処理やプラスチック再生原料製造を実施。工程：異物除去 → 洗浄・破碎 → 圧縮 → ペレット化。

課題：全体の約5割のみリサイクル可能。残りは燃料化や助燃材として利用。

町田市バイオエネルギーセンター経緯：市民134名が290回超の会合を重ね、市民主体で計画。2021年完成、翌年稼働。

特徴：焼却・バイオガス化・不燃ごみ処理を一体整備。体験型展示や学習機能を備え、市民の理解促進に活用。

意見：施設建設には大規模投資と土地が必要。マイクロプラスチック対策には有効だが、広域連携が不可欠。

意見：大規模施設はコスト課題が大きい一方、子どもから家庭へ意識が広がる点が効果的。総括プラスチック再商品化や生ごみバイオ化は環境負荷削減に有効ですが、費用や合意形成が課題です。本市でも将来の炉建設やごみ処理を検討する際、広域的視点と市民参加を重視すべきだと感じました。

市民クラブ所属議員紹介

氏名	常任委員会・特別委員会	氏名	常任委員会・特別委員会
岡崎 豊	厚生委員会 南海地震等災害対策調査特別委員会	岡崎 邦子	建設環境委員会 南海地震等災害対策調査特別委員会
長尾 和明	建設環境委員会 行財政改革調査特別委員会	木村 亘	経済文教委員会 まちづくり調査特別委員会
神岡 俊輔	総務委員会 まちづくり調査特別委員会	楠目 慎一郎	総務委員会 行財政改革調査特別委員会